



本弘寺別院

こども仏教

ブッダがせんせい

がまん(我慢)

遊びたい気持ちを我慢して宿題をやる、お兄ちゃんお姉ちゃんなんだから我慢しなさいってお母さんに言われて我慢する。

みんなも我慢していることってあるかな。

この我慢という言葉は、もともとは、仏さまの教えの言葉なんだよ。

「自分が一番えらいと思って、ほかの人をばかにしたり、軽くみたりすることを「我慢」といい、悪い意味で使われていたんだよ。

我慢の「我」は、自分のこと。仏さまは、なんでも自分中心に考えるのは、悪いことですよと教えていたんだよ。

みんなも、我慢をした時、気持ちよく我慢できたことってあるかな。しょうがないなって思ったり、本当は我慢なんてしたくないのに・・・って気持ちにならないかな。こう言う気持ちになっている時は、こころが僕が僕が、私が私がと自分のことばかり考えているときだよ。

そんなときは、大きく深呼吸して相手や周りのことを考えられるといいね。

我慢とは、現代では耐えるや辛抱するといった良い意味で使いますが、元は「自分に執着し、おごりたかぶり他人を侮る」という悪い意味で使われていた仏教語です。人生において、堪え忍ぶことは大切なことですが、「私こそが」といった「我慢」や、せっかくの人の思いを踏みにじるほどの「やせ我慢」はほどほどにしたいものです。

坊守

吹く風がやさしく 賑やかな虫の声に秋の訪れを感じます。

さて、先月、お盆法要が無事に厳修されました。私たちの予想を上回る大勢の皆様にお参りいただきました。私たち自身も当寺でやるのは、初めてでしたので、無事に迎えさせていただき、感慨深いものがありました。

阿弥陀経のお勤め後、住職の法話があり、「皆、幸せを求めているが、求めている方向が逆ですよ」というお話がありました。



今月は、お彼岸を迎えます。

以下の日程で、法要が執り行われますので、皆様の御参詣お待ちしております。

ぜひ、お数珠をご持参ください。

秋彼岸法要



日時 9/23 (秋分の日)
受付 13:00～ 法要 13:30～14:30

恐れ入りますが、駐車場に限りがありますので、
公共の交通機関をご利用くださいよう
お願い致します。

温 故 知 新

9月は防災月間です。

何十年に一度の大雨や災害などが起きていますが、皆さん、防災対策はしていますでしょうか。2011年3月11日に発生した東北大震災に関する記事に、「さらしや紐、バスタオルを代用し子どもをおんぶ」という記事を目にしました。抱っこひもの代用として、避難所にあるものを使って、おばあさん達が若いお母さんに子どもをおんぶ・抱っこする方法を教えていたと言う記事です。緊急時(地震や火事等)には、今使っている抱っこひもなどが手元にないこともあります。今回は、お檀家さんから布を使った抱っここの仕方を教わりましたので、ご紹介いたします。

【作り方】

布(さらしななど)の中央部分を緩めにおへそあたりに当て、背中側で交差させ、両端を下から上へ、それぞれの肩に掛けます。前では上から下へ垂らして交差させ、おなかの帯の下に通します。後に回して縛れば完成です。



布を使った抱っここの手順 (NPO法人「だっことおんぶの研究所」より引用)

さらしは有能な便利グッズです。紐にもなり、三角巾がわりに、おんぶひもだっこひも、おむつやガーゼがわりなど七変化しますので、防災グッズに一つ入れておくといいかもしれません。

さらしは、薬局・ベビー用品売り場・手芸屋さんで購入できます☆

質問コーナー

お寺で法要があるときに、お布施は必要ですか?

という質問をいただきました。

皆さん、疑問に思っていらっしゃるようなので、お答えさせていただきます。

まず、故人の年回忌法要(一周忌など)の場合は、『お布施』と言いますが、

お寺で執り行われるお盆やお彼岸の法要の時に納めるのは、お布施ではなく

『志納(しのう)』と言います。この志納は、法要の時のお花・お香・おしるし代などに使わせていただくほか、お寺の運営・護持するための浄財として有り難く

拝受しております。もちろん、強制ではありません。

もし、お納めされる場合は、お気持ちですので

決まりはないのですが、三千円～一万円が多いようです。

封筒は、無地の封筒や水引の封筒などを用いります。

門徒もの知り帳

お彼岸

という言葉が何を表しているかと言
うと、彼の岸=さとりの境地を意味しています。
さとりだなんて言うとあまり普段の生活には関係
ないようですが、しかし、気付かないだけで誰
もが心の奥底で願っていることです。
普段の生活といいましたけど、いつも気苦労が絶え
ないといいますか、憂いというのでしょうか、そ
ういう日々の心配事から解放されたいという想
いが人間の根底にはあるのです。
それは、安心して生きたいということです。
誰にでもそういう願いはあるのです。だから、
一所懸命働いて生活を安定させたいだとか、健康で
長生きしたいだとか、思いは人それぞれ違います
が、誰もが願っているのです。
しかし、思う通りにはいかないものです。

思う通りにならないこの世を此岸 (こちらの岸)

と言います。そしてそういう日々から解放され、安
心して生きられる日々を彼岸といいます。
だから誰もが彼岸を願っているといえるのです。仏
教はそういうことを教えてくれています。
お墓参りをするにしても法事をつとめるにしても、
ただ亡くなった方を偲ぶだけではなく、亡くなった
方を通して仏教に出会うということを日本人は昔
から大切にしてきたのです。
そんなことをひとつ知っておくだけで、もうすぐ迎
えるお彼岸も今までとは違って感じられてきませ
んか。

此岸から彼岸へ渡る道、お淨土へ生まれる道を、
「二河白道(にがひやくどう)」という喻えで説かれ
ています。それを棟方志功が描写した作品を
彼岸法要時お飾りします。

年間行事

1月 1日 修正会

3月 春分の日 彼岸法要

8月 15日 お盆法要

9月 秋分の日 彼岸法要

11月 18日 報恩講

定例法話

毎月 18日 11:00～お寺

毎月第一日曜 14:00～靈園



本弘寺別院

秦野市渋沢 1398-12

TEL : 0463-82-9577

honkouji.wakka@gmail.com